

# Eblo Report

学生と共に作り、学生と共に考える。

Nissei Eblo inc. SUSTAINABILITY REPORT 2020

Vol.11

羽  
ば  
た  
け、  
し  
な  
や  
か  
に、  
つ  
よ  
く。

# Be Resilient

しなやかに、つよく。

2020年、コロナ禍となって当社も様々な課題に直面しました。しかしながら、社員が皆、目線が前向きでポジティブに考えて行動することができた為、結果として営業利益目標を達成することができました。社会にあってはソーシャルディスタンスという言葉に象徴されるように様々な制限がとられるようになり、コミュニケーション上の距離感や分断が社会活動に大きなインパクトをもたらすということを感じました。それと共に、人と当たり前に直接会って話すことが出来なくなることにより、人間者社会とはいかに脆いものかということを考えさせられました。

私達は創業75年、「つたえる、つながる。」をコーポレートスローガンとして「コミュニケーション課題の解決を支援する」ことを事業としています。そしてこの10年間、次代を担う学生とともに毎年本誌の企画制作をプロ

私たちは「**コミュニケーション**」で  
しなやかに強くなる。

ジェクトとして行ってきました。この災禍にあって望まれる「どのようにすれば伝わるのか、どのようにすればつながるのか」という課題を、今回のプロジェクトを通じて学生の考えにも触れながら、社員一人ひとりがあらためて深く考えるきっかけとなり、進むことができたのではないかと感じます。

「レジリエンス」とは、「弾力」や「復元力」、「回復力」を意味します。こうした激しい変化をも好機と捉えて対応し、自らの成長・発展へとつなげていく「しなやかな強さ」が大切であることを確信し、私達はこれからも皆様の「つたえる、つながる。」課題の解決に向けて、レジリエントなサポートをさせていただきたいと願っています。

令和2年12月  
ニッセイエプロ株式会社  
代表取締役社長 亀田耕平



武蔵野大学 工学部 環境システム学科 講師 磯部 孝行 氏

博士（環境学） 専門：資源循環、建築生産

2020年は、10年以上つづくこのプロジェクトの最大の危機であり、挑戦の年になったのではないのだろうか。

2020年4月7日、緊急事態宣言が発令され、オンライン授業を行いながら、社会との接点をなくした学生を案じたのは、今でも鮮明に覚えている。そんな中、ニッセイエプロ社から学生のためのオンラインプログラムをとの提案をいただいた。そして、5月にはオンラインでニッセイエプロ社と学生とのコミュニケーションがはじまった。まだ、街が閑散としていたところオンラインの中では、ニッセイエプロ社と学生のしなやかさとつよさを垣間見た。今現在、対面とオンライン化が併存し、コミュニケーションそのものが一つの大きな社会課題となる一方で、新たなコミュニケーションの形が生み出されている。その中で、このプロジェクトも新たなステップへ飛躍した年であったといえる。どのような困難にも、ニッセイエプロ社は共に立ち向かって頂けることに感謝に堪えない。



※万全の感染対策を行った上で取材・撮影しています。



*Anti-Corruption* 分断から協調へ

コロナ禍で見えてきた新たなリスクコミュニケーション。  
自発・能動的に考え、周囲にも気を配りながら実行する。

かつてなく日常のコミュニケーションがとりづらくなり、そして社会は分断されつつあります。その分断は、孤独や不安、不信へとつながり、新たな格差や差別、腐敗につながりかねません。仕事にあっては、画面越しのオンラインミーティングや商談、在宅環境での様々な業務等、つながることの難しさにも直面しました。社の方針・目標をチームワークで話し合い、決めたことをいかに一人ひとりが守れるか、前に進むには協調できるコミュニケーションを強くする方法を実行することが必要です。

2020 Output

- ・ 全社営業目標の達成。利益案件への転換、利益率改善、純新規口座獲得増
- ・ 中途採用により即戦力となる人材の獲得（75期10名）
- ・ ベトナム国内でのOEMによる商材開発・販売（初のB to C自社商材：抗菌マスク）

Key Context

▼ リモート環境下での新方針、ルール策定とコンプライアンス

社内コミュニケーションが不十分な場合に起こり得る問題として、会社の方針・ルール順守は散漫になりがち、上層部や上司との意見交換、情報の共有化が停滞、さらに部署を越えた横断的なコミュニケーションの希薄化、雑談レベルの日常会話の漸減といった課題。従業員のストレスは増加し、モチベーションは低下、労働生産性の低下にもつながりかねない。



2030年に向けて学生と対話し、検証する、

ダイバーシティ



ワークライフ  
バランス

国連グローバル・コンパクト4分野10原則



*Human Rights* 画一を多様に

世代をはじめ、仕事への向き合い方などの多様性。  
相手の目線を受け入れ、新しい価値を創造する。

2020年、変化への対応として多様な人材を増員し、強い組織を目指す方針で進めました。今まで行えなかった新たなトライができるようになり、仕事の環境が劇的に変わりつつあります。一方、テレワーク下、案件業務の打ち合わせが中心となり、用事のない会話が激減しました。異なったものの見方ができる人が集まる組織が、健全であり、強いと言われます。かと言って、ダイバーシティな会社は単にわがままを許してくれる会社ではありません。自分の目線をつたえる、相手の目線を理解する。その理解が共有できる視座を互いに高め合い、「違い」を強みにすることが新たな価値と考えています。

2020 Output

- ・ 他者の差異を知るテレワーク社内意識調査（年2回）と施策
- ・ 毎月、全社オンライン勉強会を通して他者の業務事例を共有
- ・ 学生（Z世代）と社員の世代を超えたコミュニケーションによる自省

Key Context

▼ Z世代とは？ ミレニアル世代とは？

「ミレニアル世代」とは2000年代に就職した世代で、その就労観は現勤務先で働く期間は「2年以内」と答える人が世代全体の半数とも言われている。一方、その下にいるZ世代は（大学生以下）ミレニアル世代よりもインターネットネイティブであり、デジタルスキルとグローバルな規模で情報収集能力が高い。その能力を駆使して物事の本質を見定める眼を持ち、社会的責任を果たす企業をより強く信頼する傾向があるとされる。



*Environment* 削減と限界

テレワークで気づいた改善。  
移動時間を別に活かす、時間管理について考える。

以前、2020年に開催される予定だった東京五輪に向けて分散型の働き方も検討されてきました。社内にて色々な考え方がある中、コロナ禍となり、全従業員のテレワーク導入に舵を切りました。全従業員がテレワークを経験し、日常の通勤や外出の移動時間が少なくなっています。業務の標準化とIT化を進め、ハンコや紙資料を使う処理を減らすことに着手。離れていても商談や社内打ち合わせができるようになっています。ペーパーレス化や移動に伴うCO2排出量の削減も進みました。サステナブルに向け時間を有効活用し、最少のコスト（経費、時間、資源、労力）で目的を果たします。

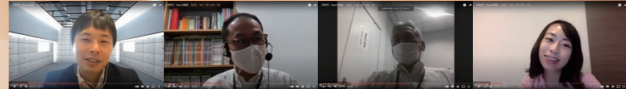
2020 Output

- ・ リモートワークにより旅費交通費（66%）、水道光熱費（81%）などの経費削減
- ・ 総務部での業務標準化、ペーパーレス、ハンコレスをトライアル
- ・ オンラインを活用した距離に縛られない遠隔の新規顧客開拓とコスト削減

Key Context

▼ コロナ禍のCO<sub>2</sub>排出量と限界

「大気汚染が深刻なインドで数十年ぶりにヒマラヤが見えた」と言われるほど、コロナ禍は未曾有のCO<sub>2</sub>を削減し、環境を改善した。社会ではリーマンショック時の2%削減に対して年間7～8%のCO<sub>2</sub>の排出が減ったとされる。しかし、経済が止まっていた結果であり、経済の抑制により単年だけ減っても温暖化を止める効果はほとんどない。コロナ禍を通して、経済を我慢することで温暖化を止めるのは無理だということを学んだと言える。



*Labour* 就社と就職

これからの働き方を考える。  
成果と成長を実現する個々の最適なスタイルを追求する。

働き方改革が進む中で、「メンバーシップ型雇用」と「ジョブ型雇用」と言う言葉をよく聞くようになりました。その他、人材確保の課題には「一括採用」と「通年採用」、「総合職採用」と「職種別採用」、「職能給」と「職務給」等も併せて話題になっています。企業の事業内容等によって、これらは「A or B」なのか、「A and B」と捉えるのか、目的やそれぞれの定義の理解もいろいろあり、揺れる問いなのではないでしょうか。個人と組織を結びつける仕組みが再考される中、いずれにせよ、私達はブレずにお客様の課題解決に向けた支援を最優先し、働き方の最適化を追求します。

2020 Output

- ・ 社員、契約社員、派遣社員問わず、仕事に合ったスタイルでテレワーク普及率100%
- ・ 新人事制度へ刷新、社員の頑張りに報いるダイナミックな処遇の実現
- ・ 社内コミュニケーションの改善（課題の顕在化）

Key Context

▼ メンバーシップ型雇用？ やはりジョブ型雇用なのか？

仕事内容を限定せずにまず企業共同体のメンバーとして迎え、担当業務内容は会社が決める、日本独特の正社員雇用は「メンバーシップ型」と呼ぶ。一方、「ジョブ型」とは、採用時から仕事内容ははじめ勤務地や労働時間等を明確化した雇用契約を結ぶ。その範囲内でのみ仕事を行うという欧米をはじめ世界中で標準の雇用システム」。日本では今、ジョブ型の要素を取り入れようという議論をしている。



## プロジェクト概要 2020



コロナ禍にあって大学は急遽、オンライン授業を行わざるを得ない日常となりました。学生は其中でキャンパスライフがなくなり、又、就活をはじめ将来への不安もある中で生活になりました。過去10年間、学生と協働のプロジェクトを行ってきた私たちは、この時だからこそ、学生に寄り添い、つながりを途絶えさせることなく、どのようにすれば毎年のプロジェクトが持続可能かを考えました。5月末より有志学生11名と緊急インターンシップを3か月間試行し、8月下旬より学外学修授業を8名の受講者と3か月18回、いずれもオンラインで実施してきました。



▲ グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ) <https://www.ungcnj.org/>  
Eblo Reportは国連グローバル・コンパクト10原則についての実践状況、成果としてUNGC本部(ニューヨーク)へ毎年、提出しています  
<https://www.unglobalcompact.org/>

# PROJECT OUTLINE

COVID-19

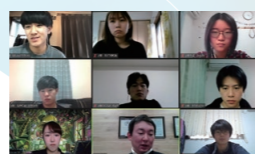
### 広報メディア共作

働き方改革に向けた討議



### 学外学修授業

フィールドスタディーズ実施



ニッセイ  
エブロ  
Nissei Eblo

### ONLINE インターン

社会人との実務交流



8 働きがいも  
経済成長も



17 パートナリプで  
目標を達成しよう

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT GOALS  
世界を変えるための17の目標

### 産学連携

知識・技術の共有



学生  
Student

大学  
University

### 就活スキル支援

他学生との差別化



### 社会人基礎力育成

ソーシャルスキルの向上



学生との取り組みを動画で配信！

エブロTV  
Eblo CHANNEL



※ 万全の感染対策を行った上で取材・撮影しています。

### 橋本 貴仁

環境システム学科 3年

論理的に伝える術を学ぶことができました。「結論から話す」というシンプルな方法ですが、練習を積み重ねなければ身につけません。オンラインという特別な環境下での貴重な経験を就職活動、社会に出てからも活かしていきたいです。

### 藤本 諒

環境システム学科 3年

今回特に学べたことは、物事の本質を見抜く術です。本質を見抜き、そこを深掘り出来れば、必ず社会人になった際に力になると感じました。残り少ない学生生活ですが、この力をより高めていきたいと思っています。

### 安 隼斗

環境システム学科 3年

大学に通っているだけでは学べないディスカッションや、コミュニケーションなど、多くの体験を通し、また一歩成長出来たと思います。社会人になった際にもこの体験を活用して、もっと成長出来るように努力します。

## EDITOR'S NOTE

編集後記

本プロジェクトに参加した  
武蔵野大学 学生の皆さん

### 仁科 初音

環境システム学科 2年

今回、様々な部署の方に取材をさせていただいたことで、企業の職種ごとの役割についてイメージを描くことができました。これを就職活動に役立てると共に、世の中に対するアンテナを張り続け、今後も情報収集力を高めてまいります。

### 江森 理人

環境システム学科 3年

今回、コロナ禍という特殊な状況での実施でしたが「レジリエンスを軸に考える意識」が向上しました。今後、多くの場面で今まで通りにならないこと、困難なことがあると思いますが得られた意識、能力を活かし乗り越えていきます。

### 千葉みな美

グローバルコミュニケーション学科 2年

限られた時間の中で、いかに濃い内容の取材にするか。聴く力・問を立てる力の重要性を学びました。就活に向けてこれらのスキルを向上させ、自分の強みにしていきたいと思っています。

### 中島 崇博

環境システム学科 3年

様々な方と関わらせていただいたことで、相手の考えていることを正確に理解し、それについて具体的な対応を取る力がついたと感じています。これから先この力をさらに洗練させ自分の武器にしていけたらと思います。

# BeResilient

しなやかに、つよく。

事業内容に関するご相談、お見積もりなどお気軽にどうぞ

Communicate **to Connect**

つたえる、つながる。

[www.eblo.co.jp](http://www.eblo.co.jp)



ニッセイエブロ株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-18-17 明産西新橋ビル

TEL 03-5157-1271 [代表] | FAX 03-5157-1273



事業内容

【広報PR、広告宣伝、販売促進】企画・編集・デザイン・総合印刷、イベント・展示会等、企画運営、Web企画制作・システム開発、映像企画制作、文書管理・情報管理  
【エージェントサービス】労働者派遣事業(許可番号:派 13-306707)、有料職業紹介事業(許可番号:13-ユ-307932)